

気象庁ホームページのアクセス集中対策について

気象庁ホームページについては、平成 8 年に開設後、アクセス数が徐々に増加していましたが、本年、台風第 6 号が日本に上陸した 6 月 21 日の昼頃には、台風情報を中心に 1 時間あたり約 23 万のアクセスが集中し、ホームページの閲覧がほとんど不可能となりました。

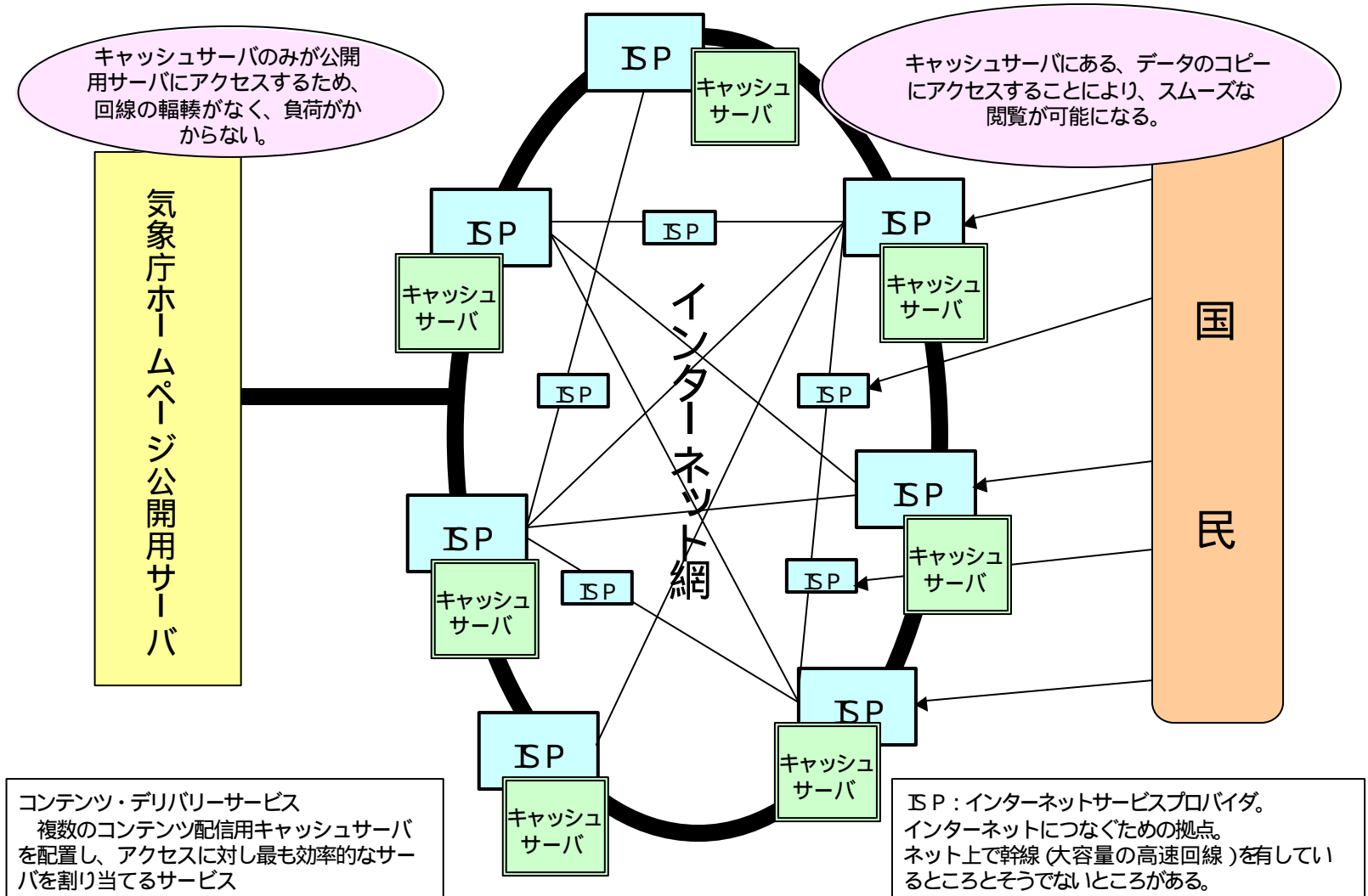
このため、アクセス集中対策として、インターネットの情報提供専門業者によるコンテンツ・デリバリー・サービス(別紙)を 8 月 27 日から導入しました。

この結果、台風第 16 号が九州に上陸した 8 月 30 日にはアクセス数が、1 時間あたりで 190 万、1 日の合計で 2100 万を超えたほか、9 月 5 日の紀伊半島沖地震の際や東海道沖地震により津波警報が発表された際には、それぞれ 1 時間あたりのアクセス数が、173 万、233 万となり、また、台風第 18 号が上陸した 9 月 7 日には 1 日の合計アクセス数は 2570 万を超え、一日のデータ転送量は 1 テラバイトを超えましたが、ホームページの閲覧について特段の問題はありませんでした。

気象庁は、今後も気象庁ホームページの内容の充実と利用しやすい環境改善のための努力を続けていくこととしています。

- * アクセス数の単位は、ページビュー（PV）。
ホームページを 1 ページ表示させるごとに、1 ページビューと数えます。
- * 1 テラバイトは、約 1 兆バイト

気象庁ホームページのアクセス集中対策イメージ図



気象庁ホームページ日ページビュー (2004年4月1日～)

